

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	福山市立春日小学校		
学校長氏名	石井 秀司	栄養教諭氏名	藤井 薫
職員数	32名	児童・生徒数	469名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

(1) 朝食喫食率と朝食内容

全校の朝食喫食率は99%であるが、5年生（7月）の調査では、喫食率91%で、主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べている児童の割合は53%であった。

(2) 給食の残食率

本校は、市内では低いほうではあるが、昨年度は主食である米飯の占める割合が、年度後半にかけて高くなってきている。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

(1) 主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べる児童の割合

【成果指標】主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べている（5年生）

【目標値】58%

(2) 給食の残食率

【成果指標】全校の給食の残食率

【目標値】2.0%以下

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ）みそ丸の普及による朝ごはんの内容の充実に向けての取組

・第5学年の総合的な学習の時間「春日ファーム&キッチン」

5年生は、「自分や家庭を取り巻く食の課題」（朝食内容、孤食、加工食品摂取の増加、食品ロスなど）についての学習を重ね、2学期及び3学期には、その解決に向けて、家庭や地域への発信を行った。

解決の手立ての一つとして、「みそ丸」（手作りの即席みそ汁の素）を選択し、それぞれの課題解決にあった「みそ丸」をグループごとに考案した。参観日の日に、保護者に説明の後、試飲していただいたり、春日フェスティバルでは地域の方々にレシピを配布したりした。



【授業のワークシート】～栄養教諭の話と「みそ丸クッキング」から分かったこと～

- ・ふだんは捨てている野菜の皮も、乾燥させると「みそ丸」の材料に使うことができ、食料ロスを少なくできる。
- ・みそには、がんなどの生活習慣病を防ぐ力があるのが、わかった。

【取組2】（テーマ）残食率の減少に向けての取組

(1) 給食委員会での完食率の見える化の取組

給食の後片付けチェックとあわせて、担当クラスの完食状況を確認し、グラフ化したり、完食状況により賞状を学級に渡したりするなど、児童の残さず食べようという意欲を高めた。

(2) DVD「給食ができるまで」の活用

食育班（栄養教諭・学校栄養職員・副ブロック長で構成）で作成したDVDを職員研修で活用し、担任の給食指導に生かした。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

(1) 高学年児童とPTA活動との協働等による「ひろしま給食」及び「みそ丸」の家庭・地域への普及啓発の取組

・平成28年度の特別賞レシピ「おいC!ヘルC!とり肉の広島レモンしょうゆ丼」と「みそ丸」を100食調理し、地域の文化祭で販売した。

ブースの設置や看板制作、製品の搬入等はPTA役員で、丼の調理と配膳は本校で、みそ丸の制作と販売担当は本校料理クラブ児童が担当した。



レシピの配布も行った。

(2) 食育だよりによる情報発信

・11月5日の文化祭の様子を11月号で家庭へ情報発信した。

・ひろしま給食福山レシピ賞レシピを家庭に配布した。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

(1) 主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べる児童の割合

56%（目標値58%） ☆目標は達成できなかったが、2月の5年生保護者のアンケートからは、「みそ丸を朝食に出したい」「みそ汁の具を意識するようになった」などの感想があり、意欲の高まりがみられた。

(2) 給食の残食率

1.4%（目標値2.0%以下） ☆目標達成（主食のごはんの占める割合も、3学期には0.3%前後と減少している）

【課題】

- ・朝食の内容については、2ポイント上昇はしたものの、県平均の66%を10ポイント下回っている。今後も、内容の充実を図る必要がある。
- ・みそ丸を作ることへの児童の関心は高いが、その後の家庭での朝ごはんでのみそ汁定着状況は、7月と2月では、ほとんど変わらない。（児童が調理を行っている割合は低い。）児童の調理への関わりなどを通して、引き続き、家庭での定着を図る必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・食に関する全体計画を見直し、成果指標と目標値を設定する。
- ・カリキュラムマップに食育の項目を設定し、教職員の共通理解のもと食育を推進する。